

# 海洋・港湾構造物維持管理士会における人材育成の取組み



## 末岡 英二

海洋・港湾構造物維持管理士会 会長  
東洋建設株式会社 美浦研究所長

### 1. はじめに

高度経済成長期に建設された海洋・港湾構造物の多くは、老朽化が進行しており、今後、維持・改良・更新の増加が見込まれています。しかし、これらの構造物は、波浪や塩害の影響を受ける過酷な海域環境下にあり、鋼・コンクリートからなる複合的なものとなるため、その維持管理においては、設置環境、構造特性を踏まえた固有技術を習熟するとともに、変状連鎖を踏まえた点検診断や、維持工事に高い知識を有する技術者の確保、育成が必要となっています。そこで、沿岸技術研究センターにより、海洋・港湾構造物の維持管理計画の策定、点検・診断、および補修設計・施工において指導的な役割を担う優れた技術者を認定するために、海洋・港湾構造物維持管理士の資格制度が2008年度に創設されました。このような背景のもと、海洋・港湾分野での維持管理に関わる技術者の育成や技術の研鑽・普及・向上を図ることを目的として、維持管理士を中心とした技術者からなる海洋・港湾構造物維持管理士会（別称：MEMPHIS会）が2012年に発足し、今年で10年目を迎えます。

### 2. 海洋・港湾構造物維持管理士会の概要

本会は、役員、事務局、技術顧問、個人会員（正会員（資格保有者）、準会員）と、本会活動を支援して頂いている団体会員（賛助会員）から構成されています。2022年6月末現在、役員11名、技術委員20名、事務局2名、技術顧問3名、正会員285人、準会員506人、賛助会員45団体となっています。個人会員は、建設会社、調査・設計コンサルタント、防食・施工業者、国・地方自治体・港湾管理者に所属する方であり、賛助会員はこれら技術者の属する民間会社から構成されています。当会の活動計画やその実施は、主に役員・事務局で行われており、行事予定や活動計画・報告は当会のホームページ（memphis-kai.com）でお知らせしています。また、本会は、

2016年6月に、港湾空港技術研究所、沿岸技術研究センターとの3者間の連携・協力の提携を締結し、活動の活発化を図っています。その成果として、2016年12月：港湾空港技術研究所資料「係留施設の変状連鎖と点検診断に関する一考察」の執筆支援、2019年11月：ベトナム交通運輸大学での「海洋構造物のライフサイクルマネジメントに関するセミナー」への参加、2021年1月：沿岸技術研究センター機関誌CDITへの投稿「性能設計と維持管理」などが、挙げられます。

### 3. 主な活動内容

#### 3.1 講演会

会員相互の情報交換や資格取得後の継続学習の場を提供するために、2012年から毎年定期的に14の港湾都市で講演会・見学会を実施してきました。2020年からは、COVID-19感染の影響により、オンデマンド方式、あるいはオンライン・オンデマンド方式併用によるWeb講演会となり、残念ながら見学会は中止となっています。講演会では、4～7人/回の講師をお招きして、多岐に渡る維持管理に関わるご講演をお願いしています。これ



写真1 講演会の状況(第18回札幌)

表1 講演会の実績

回数	開催時期	場所	人数	回数	開催時期	場所	人数
第1回	2012年7月	東京	61名	第13回	2017年9月	大阪	138名
第2回	2012年10月	大阪	74名	第14回	2017年12月	下関	116名
第3回	2013年4月	福岡	98名	第15回	2018年5月	横浜	153名
第4回	2013年7月	仙台	134名	第16回	2018年7月	仙台	128名
第5回	2013年11月	広島	65名	第17回	2018年11月	松山	104名
第6回	2014年4月	名古屋	82名	第18回	2019年6月	札幌	164名
第7回	2014年9月	札幌	107名	第19回	2020年11月	配信 <sup>[注1]</sup>	210名
第8回	2015年4月	新潟	153名	第20回	2021年6月	配信 <sup>[注2]</sup>	153名
第9回	2015年9月	高松	126名		2021年8月	配信 <sup>[注1]</sup>	253名
第10回	2015年12月	那覇	121名	第21回	2021年11月	配信 <sup>[注2]</sup>	148名
第11回	2016年10月	東京	132名		2022年1月	配信 <sup>[注1]</sup>	130名
第12回	2017年5月	金沢	115名				

[注1] オンデマンド配信  
[注2] オンライン配信

までの講演会の実績を表1に示します。これまでの参加者は、第1回(2012年)～第18回(2019年)までの講演会で、のべ2,071名となっています。また、第20回、第21回(いずれも2021年)のオンライン講演会で、のべ301名、第19回(2020年)～第21回(2021年)のオンデマンド講演会で、のべ593名となっています。2020年からはCOVID-19感染の影響で対面での講演会や見学会が実施出来なくなったものの、Web講演会とすることにより申込み者が大幅に増加し、各種資格更新や、工事受注時の評価対象となるCPD獲得支援の対象者拡大に繋がったものと思われます。講演会の状況を写真1に示します。

### 3.2 維持管理研修

国土技術政策総合研究所や各地方整備局では、維持管理人材を幅広く育成するため、国や港湾管理者の職員、港湾施設を保有している民間企業の担当者を対象とした維持管理研修を主要な港湾において継続的に実施されています。当会では、これらの維持管理研修会の講師として、御協力させて頂いています。国総研の維持管理研修は、2016年度から座学による維持管理・点検診断技術に関する講義や、実際の港湾施設による点検診断の実習などを行いました。また、各地方整備局の維持



写真2 維持管理研修の状況(2019年)

管理研修では、港湾施設の点検診断の実習を中心とした講義を2016年度から行い、2021年度までに35か所の港で、延べ258名の講師を派遣しました。講師として、当会役員のほか技術委員の方にもご協力頂いています。地方整備局における維持管理研修の様子を写真2に示します。

### 3.3 資格認定試験の勉強会

海洋・港湾構造物維持管理士の有資格者を増やしていくことも、海洋・港湾構造物維持管理士会の重要な役割です。海洋・港湾構造物維持管理士の認定試験は、択一式と記述式の2つからなります。毎年、海洋・港湾構造物維持管理士会の役員が、問題の解答を作成し、択一式については解答と解説をホームページに掲載し、記述式については、賛助会員を対象とした勉強会の中で解答例とその解説を実施しています。勉強会は、2019年度から始まり、2019年度は対面で、2020年度からは、Web方式で行っています。Web方式での勉強会の状況を写真3に示します。加えて、2021年度から勉強会の様子を記録して、賛助会員以外にもオンデマンド配信する取組みを始めました。



写真3 Web方式での勉強会(2021年)

## 4. 今後の展望

海洋・港湾構造物維持管理士は、2014年度に国土交通省の民間資格として登録され、地方整備局発注の総合評価落札方式の維持管理関係業務においては資格加点となっています。このように、海洋・港湾構造物の維持管理に関わる技術者を評価するための資格の重要性が高まっており、それとともに技術者の能力向上の場が望まれています。また、国土交通省港湾局では、新技術導入への取組みとして、点検技術の公募により点検診断新技術カタログの作成に取組まれており、今後益々構造物の維持管理への新技術導入が加速するものと思われます。このような状況のもと、海洋・港湾構造物維持管理士会では、これまでの活動を維持・発展させるとともに、維持管理人材の確保・育成のための新しい取組みについても、積極的に検討、実施していきたいと考えております。